

ゆうかりに乾杯

第154回放送の概要（2020年2月22日放送）

パーソナリティ

たろう

（佃 由晃）

なか

（中嶋邦弘）

あきこ

（村上明貴子）

クララ

（河野真紀）



ミキサー

ふじた

（藤田 学）

かりん

（妹尾優香）

ふじ

（藤岡 哲）

会計

（小山俊則）

相談役

わだかん

（和田幹司）

1. ゲストコーナ（1）：兵庫県立兵庫高校創造科学科 山本悠人さん、豊田亜由香さん、藤田詩子さん、酒井優希先生

1. 兵庫高校創造科学科の志望理由

———この特別な学科をどう理由で志望されましたか。

（山本） 学科の課程の魅力が大きい。創造基礎A，同B，RRE（Research and Report in English）、課題研究など様々な教育の過程がありますが、その全てに魅力を感じ、自主性をもって行動できるとか、色んな学習ができそうなこの学校学科を素晴らしいと感じました。

（豊田） 中学の時の学校調べ宿題で、色々な高校のパンフレットを比べて、兵庫高校の創造科学科に惹かれました。活動内容や自分から主体的に行動できるし、普通科ではできないような経験が一杯できると感じた。勉強とか行事も全面的に楽しそうで自分に合っていると思った。

（藤田） 以前私の姉（この学科先輩）から、この学科では海外研修や研究発表の場が多いと聞いていた。中学時代から興味を持ち、将来デザイナーになって世界で活躍したいと思っているので、この学科ではRREとか英語の特別授業があり、将来に活かせる学習ができると感じた。

2. 創造科学科とは

———生徒さんたちがこの様に目指して入学してくる創造科学科とはどういうところでしょうか。

（酒井先生） 先ほども生徒たちが感じたように、答えの無い問いを探そうとする学科でしょうか。私も今年この学科を担当させていただいたのですが、白黒はっきりつけることだけがこれから求められているのではなくて、解決が難しい問題にどのようにアプローチするのか、沢山の手法を学ぶ

ことができる学科です。色々な方の話を聞く機会があって、豊かで環境に恵まれたところ、これからの生徒たちが楽しみです。

3. グループ研究（地域問題）

—————1年生のこの時期にはこういった学習があるのですか。

（酒井先生） 1年生の前期に創造基礎Bの科目を通じて社会課題の解決をどうするか、という文系よりの研究をしています。具体的には、地元長田区の地域へ出向いて（フィールドワーク）課題をどう解決するか、また、神戸大学の院生たちの協力のもとに自然科学、理系の研究も行っています。来週にその成果の発表の機会も控えています。それぞれ8班（各5人）に分かれて、文系理系の勉強を満遍なく研究手法を学んでいます。

（山本） 僕の班（4班）は、長田の広報の効率が良くないことの解決で、主にInstagramを使った広報で「仕事着コンテスト」を開催しました。長田に通勤通学している人にフォーカスを当てました。企業や同世代の高校生たちを対象に、多くの方々と触れ合いました。通勤通学時に調査した訳でなく、企業を回って話を聞いたりして、初対面が多く緊張しました。それぞれ企業にとって仕事着で大切に考えていることを多く学べた。目的を持って行くことが大切でした。例として山陽電鉄では、制服の背中が動き易いように切れ目が目立たないように工夫して入っている。また、MCC食品では、胸ポケットがありません。衛生面を考えて（作業中に）胸ポケットに混入することを回避している。コンテストとしては、一般審査と専門家審査の2部門あって、専門家部門ではデザイナーとか制服に詳しい方に審査してもらい、一番良いところを選考審査中です。

（豊田） 私たちの班（1班）は、長田にベトナム人が増えているので役所や地元もベトナム人を含む外国人向けイベントを開催しているが、ベトナム人の参加は増えていない現状です。参加されない理由として文化の壁があるのではないかと思う。区役所が長く手がけてきてもなかなか解消されないのので、私たちに何ができるかから始めて、日本人の方からベトナム文化に馴染みを持ってもらおうと、長田とベトナムのコラボ料理を開発しました。11月24日の新長田のふたば学舎で開かれた「まちの文化祭」に出店しました。料理の紹介ですが、一つは長田のポッカケとベトナムのバインミーを組み合わせた「ポッカケ・バインミー」、もう一つは長田のポッカケをたこ焼きの具材として焼いてベトナムのフォーに載せた「ポッカケ長田風フォー」で、そこでアンケート取ったら凄く好評でした。私たちも試食しましたが美味しかった。



(藤田) 私たちの班(5班)は、長田区の課題、若者の転出増に対して、どうしたら戻って来たり転入が増えたりするのか考えて、若者は「食」に興味を持つことに着目しました。「食」といっても、お肉であったりポッカケであったり、ソースであったりと色々で、一番アレンジしやすいポッカケにアプローチしました。「粉もん祭」が長田で開催されるので、それに私たちの考えたポッカケ料理を出店、他の地域から来られた方にも食べて頂こうと思った。そして、インスタグラムやツイッターから一般の方の協力も得て、沢山のレシピを集めました。班で実際に色々試作品を作り、その中から選んだのが「ポッカケ・クレープ」、甘い生地で塩辛いご飯系を載せてみました。ポッカケはMCC食品の本社にお願いしに行って提供いただきました。「粉もん祭」では目標180食を完売、その後に、給食レシピを採用してもらおうと、班で教育委員会に行ってお願いましたが、安全面、コスト面など雑多な問題点があり、全てをクリアするのが難しかった。企画の具体性が足りなかったことに気づき、情報収集不足、準備不足を反省するいい機会となりました。

—————みんなの活動を聞くと、良い経験をされて得るものが沢山あって次の機会に確実に反映されていますね。社会へ出たら、急に問題点が降りてきて、それをいかに早く解決するか、というのが仕事。それを解決することがお給料を貰えることになる。こういうことを早くから経験することが非常に良いことですね。

4. RRE (Research and Report in English)

—————英語だけの授業、RRE というのはどういったものでしょうか。

(山本) 授業の進め方として、留学生との交流があります。僕たちのテーマは1学期毎に1つあって、今の3学期は神戸の課題、神戸の魅力、兵庫高校のことについて話し合いました。自分たちの考え・調べたことを原稿にまとめてパワーポイントを使って発表しました。

(藤田) 台本をつくと読み上げるだけになってしまい、質疑応答の時間もあって、その場で答える際に日本語でも難しいのに、アドリブで英語で文章を咄嗟に組み立てて伝えるのが難しかった。言いたいことが単語だけしか浮かばず、伝えても誤解を生じたりして、大変でした。しかし、凄く新鮮で勉強になりました。

(豊田) 発表の際に、言いたいことが英語でなかなか出てこなかったにしが、必死に伝えようとする、留学生の方も理解しようと熱心に関わってくれるので、文法が正しくなくても伝わったことが嬉しかった。

—————困ったことなどは。

(山本) 日本語の言葉は出てくるが、それを英語にするときに、ボキャブラリの少なさとか悩んだが、留学生に伝わらないのでは、と心配しました。

—————英語ばかりでなく、「日本の文化の真髄は」みたいなことを聞かれると、どう答えますか。普段からの勉強がバックに無ければ、英語うんぬんより先に困るとよく聞かれます。

(豊田) 留学生のプレゼンテーションを聞いていると、今まで全然知らなかった国のことでした。アメリカとか、どうしても大きい派手な国に目を向けてしまいがちでその国に行きたいと思っていたが、インドネシアとかアジアにも興味を持つことができました。知らなかった社会問題とかも日本と真逆だったり、その差異を知ることが将来世界で活躍できることに繋がると思う。

5. 新聞ノート (社会問題の考察：創造基礎 A)

(山本) 自分たちで選び、ネットなどから情報収集して、議論したいことを紙に書いてグループ内の意見を問う、という紙媒体方式です。選んだ事柄に対してどういう目線・意見を持っているか、ほかの意見も聞いて自分の意見がどう変わっていくのか、その過程が狙いです。

———具体的な課題としては。

(藤田) 中学3年の時に、韓国の社会問題を調べたりしていたので、新聞ノートでも日韓問題に目を向けがちでした。最近では、医療とかで今まで治せなかった病気でも治せるのではないかと。自分で新聞を読む機会は少ないですが、凄く為になった。

(豊田) 新聞ノートを通じて自分の考え方が変わったと思う。中学時代も新聞は読んでいたが、明確な目的を持たずに漠然と読んでいた。高校では意識的に読むようになり、興味の無かった分野も読み、世間で起きていることや流れを意識するようになりました。

(山本) 新聞をどう読めば良いかというのは人それぞれだなあ、と思った。

2. ミュージックの時間

たかとり救援基地復興隊『夢光る街神戸を』

3. ゲストコーナ(2)

6. 校外講師

———校外の有名な方を講師に迎えて色々話を聞いておられるが、立命館大学客員教授で外務省顧問の藪中三十二さんから直接講義を受けられたそうです。

(豊田) テーマは「米中対立における日韓関係の位置づけ」で、実際の外務官として活躍された方の視線で今の日韓関係の話を聞き、そこから私たちが、①日米同盟の強化、②軍備増強(自衛隊)、③多国間協力(外交)、の3つのグループに分かれてどうしたら良いか議論した。自分たちで話し合いでグループ意見をまとめて順番に発表し、疑問点をぶつけ合って議論を進めました。私は③多国間協力のグループで、もし軍備増強が世界から戦争を始めるのかと勘違いされるのではないかと、米、韓、北朝鮮がヒートアップして戦争になったら危ないねとかね。藪中さんの講義の前に藪中さんのご本を読んでいたの、そこにあった「同じことを何回でも主張し続けることが大事」の教えのとおりしたら、戦争とかではなく平和に協力できるのではないかと。



(藤田) 初めは②軍備増強、だった。議論では、日本が強いカードとして自衛隊とか日本が保有するもので主張できるのが欲しいな、となっていたのですが、考えも変わってきて、同盟強化に頼ることが自衛隊を強化するのと同じメリットがあるのではないかと、というふうになりました。そうならば先ほど豊田さんが言っていたデメリットも無くなるし、同盟強化も良いじゃないかと、となりました。

———戦争回避が戦後日本人の大事に思っているところ、これからこの議論は出てくるものです。それでまた、別の講師、近畿財務局統括国有財産管理官の中野真司さんから「国民が納得する“やさしい社会”を実現する方策とは」のお話を聞かれたそうですね。

(山本) この講義に際して前々から日本の財政については校内の先生方から聞いていた。今日本の財政がどうなっているのか、事前に知識を得た上で講義を受けた。その議論の中で、自分たちは日本の財政をどうしようかと班毎に議論したが、社会保障がもっと必要とか教育が減っているの

強化の要とか出てきた。社会保障5%アップとか国債を無くすためには経費を削減が要とか、組み立てて先生と話をした。自分たちがこれからどうすれば良いのかと。

———若い世代として、みなさん、日本の財政はどうなれば良いと考えていますか。

(豊田) 社会保障など問題で勿論大事だが、高齢化より少子化の方に焦点を当てた方が良いと思う。教育にも力を入れて、将来日本だけで無く世界でも活躍して、より良い解決策を導き出してける若者を育成、そういう財政が望ましい。

(藤田) 講義で日本の財政は厳しいと聞いたが、如何に減らすかどこを減らすかを考えたときに、年金や生活保護も減らして教育を充実させる方向が要となった。ですが、実際に色々教えて頂いたら、減らすと困る人もいるし、生活保護も不正受給の人もいるが本当に必要とする人もいる、ということで難しい話だねって。

———日本は明治維新から急激に近代化したのは教育のお陰で、田舎出身でも教育を受けて国を主導できるチャンスもあった。けれども、今の日本では所得格差が教育格差になっている。教育への投資は少子化社会でも人材育成の必要はあるね。国費で将来を担う若者を育てなければならない。極端に言えば、奨学金も貸付などケチなことを言わずに渡しきりにすべきですね。

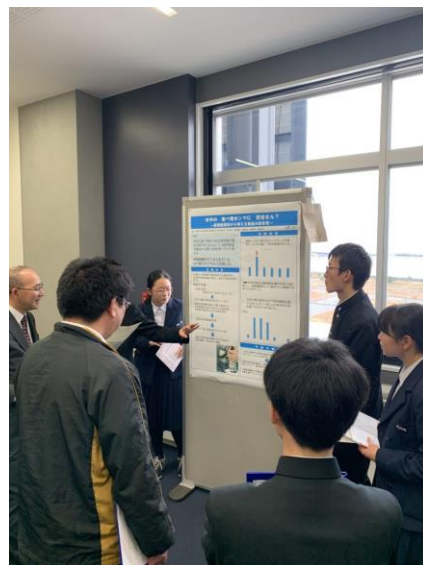
7. 他的高校・大学・団体との交流

(山本) 以前から続いているのですが、神戸高校と明石北高校と交流発表会があります。各班毎に、自然科学系の研究について、神戸大学(人間発達環境学研究科)の院生から研究内容の説明を受けて、自分たちがやりたいテーマ(①イオン液体、②食物中放射線、③環境DNA)を選んで研究を進めます。

(豊田) 私は③環境DNA、を選びました。2015年に絶滅の可能性のある生物として神戸市レッドデータブックに登録されたアユやミナミメダカについて、実際に個体数が少なくなっているのかどうか調べました。しかし河川で直接調べるのは難しいので、生物が環境中に出したDNA「環境DNA」を使って、例えば魚の鱗から出たDNAなどその量によって個体数を推測し、また実際に川に行って数えた個体数と比べてどういう関連が見られるのか、調べました。調査でしたが、親切な院生の指導を得てやりました。

(藤田) 同じく器具を使った研究になりました、食物中に含まれる放射線のGM管という測定器を使って量を調べました。海鮮にフォーカス当てて放出される放射線量を計りました。KCL(塩化カリウム)を基準値として、大気と同じくらいの値で食物の安全性が分かりました。市販されている海鮮を使ったので、海で捕れた直後のものにすればもう少し差が出たかも知れないと思った。

(山本) 僕の班は、①イオン液体、について研究しました。イオン液体は水と違う性質を持ち「第3の液体」と言われていますが、植物の核を構成するセルロースを溶かす働きがあります。これを使って、植物の体から身の回りにある天然油脂化合物のシキミ酸を抽出する過程を研究した。今は、イオン液体を使用せずやるのが主流とか、でも敢えて使わない手法で抽出するという選択肢を広げる趣旨でした。イオン液体が余り知られていないので、特性が有るにもかかわらず、量産ができずにコスト高なので研究されていないものです。



8. 高校生鉄人化まつり

(山本) 高校生主体で長田の街を盛り上げようという試み。「Re:鉄人とつくるキセキ」で、「Re」は、リーチ (Reach)、リスタート (Restart)、リメンバー (Remember)。リメンバーは覚えていることで、阪神淡路大震災から25年で震災を風化させないこと、未だ爪痕の残る中で再出発するリスタート、リーチはもうすぐ爪痕復興が達成できる、というつもり。「鉄人とつくるキセキ」とは、ミラクル (Miracle) という奇跡と自分たちが歩んできた軌跡をかけて「キセキ」としました。長田を盛り上げるための舞台がメインです。9つの近隣の高校から参加があり、兵庫高校は創造科学科と僕たちそもそのクラブ仲間たちが、舞台とか展示とかに加わって盛り上げます。クラブは、吹奏楽部、弦楽部、書道部、ダンス部、ギターアンサンブル部がステージを持ち、展示は自然科学部と創造科学部が受け持ちます。



———是非とも成功を祈ります。前半後半色々お話を伺いましたが、この1年間で得られたこと、良かったこと、またもう少し何とかしたかったことは。

(藤田) 発表の機会が多くて、質疑応答が必ずあって、学科の生徒たち(仲間)も凄く活発で、質問時間も延長になるほど熱心。みんな影響されて積極的になっています。自分が変わっていくのを感じます。適応能力も上がり、他班の意見にも聴く耳をもち、自分の考えを表明できるようになる積極性、原動力に刺激を受けています。

(豊田) 入学して発表の機会が多く凄く忙しい。気持ち的にきつくなった時に、周りを見て仲間たちの積極的な頑張りに影響され、自分も頑張ろうと思いました。お互い高め合える仲間がいる。忙しい中での両立の仕方、勉強と学科活動とのバランス、時間の使い方、計画の立て方とか、勉強とは離れたところで多くを学んだ。

(山本) 考える力が伸びたと思います。発表するためには、自分たちの研究を考え続けないと上手く行かないことを学びました。

———本日は本当にありがとうございました。

4. 地域瓦版

1. 3月15日(日)新長田ピフレホールで、「アスタ スティールパン コンサート」が開催されます。

2. 3月20日(金・祝)第10回高校生鉄人化まつり。

【3月20日に予定されていた「第10回長田区高校生鉄人化まつり」は新型コロナウイルスの影響で、中止となりました。】

3. 3月21日(土)第9回鉄人ダンスフェス。

4. 沖縄県で、兵庫高校の大先輩の島田叡さん、戦中最後の沖縄県知事で県民に「沖縄の島守」と慕われた方を偲んで、6月に「島守忌・俳句大会」があります。一般の部、高校の部と募集され、去年は兵庫高校生も入賞しました。是非応募ください。

———こういった放送に参加されて、みなさんいかがでしたか。

(山本) 上手く喋れなくて、言葉選びに苦労しました。簡単に説明することの難しさがわかりま

した。

（豊田） 昔から人前で話すのが苦手だったが、何とか喋れた。この1年の活動を振り返る良い機会になりました。

（藤田） 振り返ってみて、凄い貴重な体験をしているのだなと、改めて感じました。緊張したが、楽しく喋れました。

（酒井先生） 生徒たちのつっこみの力が増した。人の話を聞いて、自分たちで考えて、ホームルームでも、つっこみがどんどん飛んでくる。教える側としても対応する力が鍛えられます。（笑）

文書化した放送概要は「ゆかりに乾杯！」の下記のURLでご覧いただけます。

<http://yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/>